



静岡社会健康医学大学院大学 SHIZUOKA GRADUATE UNIVERSITY OF PUBLIC HEALTH



本大学について

国際社会に貢献する「知と人材の拠点」へ

静岡SPH (School of Public Health)

本大学は、2021年に開学した社会健康医学を学べる大学院大学です。公衆衛生学の5領域を基盤とし医療ビッグデータ解析やゲノム医学、オーディオロジー(聴覚言語学)について学ぶことが可能で、県内の医師や看護師、また行政の保健師、管理栄養士などさまざまな職種の方が通っています。

健康にまつわるNEWS

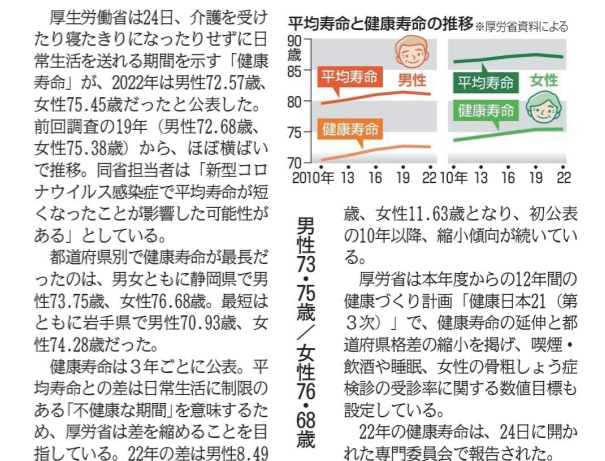
2024年公表の健康寿命調査結果において 静岡県が男女とも全国1位になりました

前回5位から1位へ3年ぶり調査で大幅上昇

2024年12月24日、厚生労働省の「健康日本21(第三次)」推進専門委員会において、2022年の都道府県別健康寿命が公表されました。静岡県は男女とも全国1位を獲得し、前回2019年の5位から大きく順位を上げました。

健康寿命とは、介護を受けずに自立して生活できる期間を指し、静岡県の男性は73.75歳、女性は76.68歳となりました。平均寿命との差である「不健康な期間」の短縮が求められる中、県内では健康増進施策や医療機関の取り組みが進められています。今回の結果は、県民の健康意識の向上や行政の積極的な施策が反映されたものと考えられます。

「健康寿命」本県1位



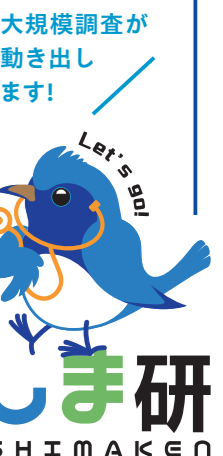
▲静岡新聞 2024年12月25日(共同通信配信)

島田市と連携し健康調査を実施へ「しまけん!健診」で 疾病予防を推進

本学は2025年1月24日、地域の健康課題の解決と予防医学の発展に向け、島田市と「静岡多目的コホート事業島田健康長寿研究(しまけん!)」の協定を締結しました。本事業では2025~26年度にかけて、市民2,000人以上を対象に通常健康診断に加えMRI、運動機能測定などを実施。市民の脳卒中や認知症、生活習慣病の予防に貢献するとともに、様々な病気の原因の解明と予防方法の開発を目指します。



▲染谷市長、宮地学長、静岡県青山健康福祉部長(島田市役所にて)



修了生紹介



修士課程 2023年度修了

塩谷 祐実 さん

〈主な研究内容〉 食と生活習慣チェック調査の研究など

研究や先生方とのつながりは大きな財産です

市役所で管理栄養士として働く中で、データを活用した施策立案の必要性を感じ、大学院に進学した塩谷さん。研究を通じて得た視点は、仕事の現場で活かされ、地域の健康づくりにもつながっています。多職種との学びや研究の経験を糧に、さらなる挑戦を続けています。

塩谷さんに聞いてみました!

Q.入学を決めたきっかけは?

A.市役所で健康増進計画やデータヘルス計画に関わる中で、課題を感覚的に判断していることに疑問を持ちました。「もっと根拠を持って施策を考えたい」と思っていた時、大学院の募集を知り、ここなら必要な知識を学べると確信しました。金・土に授業が集中している点も、働きながら学ぶ上で魅力でした。

Q.大学院での研究内容は?

A.「健康寿命延伸のための生活習慣モニタリング調査」に携わり、食生活

と健康の関係を分析しました。特に、肥満と食行動の関連を調べたところ、早食いと肥満に明確な関連があることが分かりました。食の影響を科学的に捉えることの重要性を実感し、研究の面白さを知る大変有意義な機会になりました。

Q.学びが仕事にどう活かされていますか?

A.がん検診や歯科検診の業務にも大学院での学びが活かされています。特に、ナッジ理論を学んだことで、住民への情報提供の工夫ができるように

なりました。また、研究を通じた先生方とのつながりも大きな財産で、チラシ作成の相談や研修会の依頼など、卒業後も支えになっています。

Q.今後の目標を教えてください。

A.市町単位でのデータ活用はまだ十分ではなく、行政の視点を理解する私のような立場の人間がつなぎ役になることが大切だと感じています。また、将来的には、管理栄養士として地域により貢献できる形を模索し、住民にとって身近な相談相手になりたいと考えています。

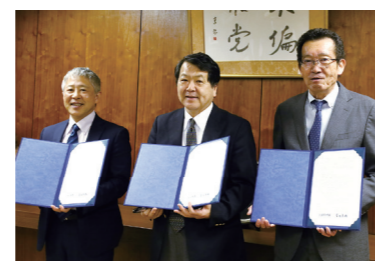
お知らせ

2025年1月

静岡新聞社・静岡放送と

健康づくり分野における連携協定を締結しました

2025年1月10日、静岡社会健康医学大学院大学と静岡新聞社・静岡放送は、健康づくり分野での連携協定を締結しました。本協定により、大学の研究成果を活用した情報発信や健康啓発活動を共同で行い、県民の健康増進を目指します。



静岡市駿河区の静岡新聞放送会館にて

公費によるHPVワクチン「キャッチアップ接種」期間について

2025年3月31日までにHPVワクチンを1回以上接種した方は 2025年4月以降も残りの接種を公費で受けられることになりました。

今年の3月までに1回目の接種をしていれば、公費で全3回の接種を完了することが可能です。

接種期間は 2026年 3月31日 まで



Webサイト

ご意見募集中

本ニュースレターに関するご意見・ご要望などお聞かせください。



ご記入フォーム

47都道府県約300市区町村が協働 テレビ番組を活用し、がん検診受診を後押し

>> NHK総合
「あしたが変わるトリセツショー」
がん撲滅キャンペーン

各自治体のがん検診対象の住民約150万人に 番組の放送日にあわせてがん検診の受診案内を送付

全国47都道府県・約300市区町村が協力し、テレビ番組と連動したがん検診受診促進の取り組みを実施しました。企画・監修したのは本学の溝田准教授で、NHK総合の「あしたが変わるトリセツショー」(2024年10月17日放送)を中心に展開。NHKとの連動は今回が3回目となり、行動科学を活用した行動変容の試みとして過去最多の自治体

が協働しました。

各自治体は、対象住民約150万人に溝田准教授らが作成したがん検診を案内するリーフレット・はがきを送付。受診方法や検診の意義を伝えて受診を勧めるとともに、番組の放送予定日も記載しました。特に静岡県では、企画に賛同した鈴木県知事のもと、県の職員が積極的に協力し、24市町が参加しました。



NHKがん撲滅キャンペーン
特設サイトはこちらから
がん撲滅 トリセツショー 検索



▲静岡県 鈴木康友知事へ協力要請の訪問時

静岡県内で参加いただいた自治体

静岡市、浜松市、三島市、伊東市、富士市、磐田市、焼津市、藤枝市、御殿場市、袋井市、下田市、裾野市、湖西市、伊豆市、伊豆の国市、牧之原市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、函南町、長泉町、小山町、吉田町、川根本町 (県内24市町)



▲実際に全国に送られたがん検診リーフレット・はがき

2025年度もテレビ番組と連動したがん検診受診勧奨を準備中です。ぜひ、ご期待ください!

静岡社会健康医学大学院大学
准教授(行動科学、ヘルスコミュニケーション)、博士(保健学)
厚生労働省参与
溝田 友里 准教授



放送にあわせて活用



県内24市町がキャンペーンに参加

NHK「トリセツショー」以外の番組(どーも、NHK・あさイチ等)でもキャンペーン内容を
取り上げ、同時期に複数の番組で連動して、同じ主旨の検診受診勧奨を行いました。

放送後も自治体・メディアと連携し、受診勧奨を継続

放送後、番組で追跡した一部自治体ではがん検診の受診率が最大7倍に増加するなど、大きな反響を

呼びました。今後も自治体とメディアが連携し、さらなる受診率向上に向けた施策を展開していきます。

担当准教授による研究解説

今回のキャンペーンでは、ナッジ等の行動科学を活用し、テレビと自治体の個別勧奨の組み合わせによる相乗効果を狙っています。テレビ番組を見て検診を「受けようかな」と思ったタイミングに、自分宛のがん検診の受診案内に、番組の放送予定を追加したものが届くことで、テレビの内容を自分事化して実際に行動してもらうことが可能になります。

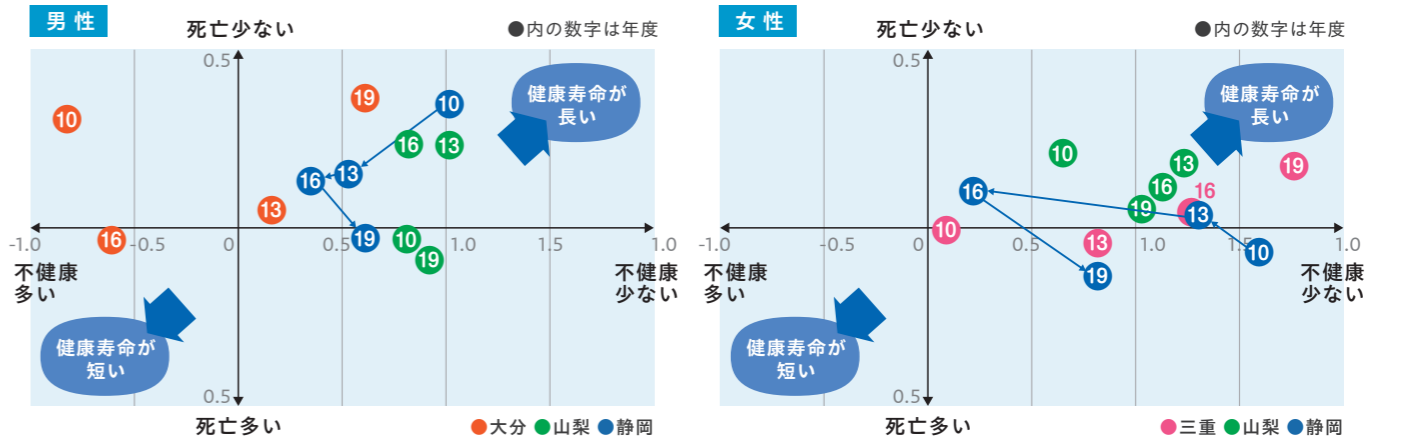
健康寿命の延伸など健康に関する数値改善の施策立案のための研究

生命表法を用いて健康寿命を地域別に分析 健康上の課題を明らかにし、政策立案の基礎データを提供

本学ではこれまでも、静岡県が健康寿命を伸ばすにはどのようにすればよいかという研究に取り組んできました。2019年の健康寿命上位県(男性:大分・山梨・静岡、女性:三重・山梨・静岡)について、

2010年から2019年までの経年変化を解析し、全国の死亡率および不健康割合を考慮した分析により、健康寿命1位の県では**死亡率と不健康割合の両方が改善されている**ことが確認されました。

健康寿命への死亡・不健康の影響



静岡県は死亡率・不健康割合共に課題だった

静岡県の健康寿命は常に全国トップクラスでしたが、近年他県に追いつかれる傾向が見られていました。そこで、2010年~2019年の静岡県における死亡率・不健康割合の推移を分析した結果、**男性は不健康割合が全国平均より少ないものの、死亡率が全国平均に近づいている**ことが判明。**女性は不健康割合が全国平均より少ないものの、死亡率は全国平均付近を変動していました。**

不健康割合は測定方法の影響を受けやすいものの、健康寿命の延伸には重要な要素です。今回、健康寿命が1位になったことはこれらが改善された結果と考えられます。今後も、地域特性を踏まえた健康施策のさらなる強化が必要でしょう。県民の生活習慣の改善や医療体制の充実を図ることで、持続的な健康寿命の向上が見込まれます。(佐藤康仁准教授、山本精一郎教授)

健康寿命の推移

